

単元名（教材名）

10000までの数「1000より 大きい 数を あらわそう」（日本文教出版『小学算数 2年下』）

本時の目標

数を多面的に捉え、言葉や図、式などを用いて表現することができる。

[A数と計算（1）イ（ア）]

読解力向上プランVer. 2における指導のポイント

⑧言葉や文と、絵や図とを対応させて考えられるようにする。

	学習活動	指導上の工夫
導入	○教室掲示等を活用し、既習事項を想起させ、数にはいろいろな表し方があることを確認する。本時の学習活動や学習課題を把握し、見通しをもつ。	
展開	○自力解決 →自分の考え方をノートにまとめる。 ○ペア共有 →自分の考え方を友達に説明する。 ○全体共有 →クラスで様々な見方、考え方を共通理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の見方、考え方が分かるように図や言葉でまとめ、可能であれば式と関連付けるように助言する。 ・考えが浮かばない児童に対して、ヒントカード等を用意しておく。 ・全員の発言の機会を確保する等、授業者が明確な目的をもってペア学習を取り入れる。 ・全体で共有する際、図や式をただ説明させるだけでなく、友達の発表の続きを考えさせたり、式や図から考え方を予想させたりする。
まとめ	○友達の多様な考え方に触れ、数には様々な捉え方があることを全体で確認する。	

☆児童の考え方の例☆

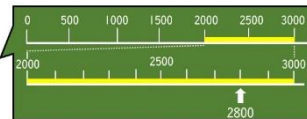
【めあて】2800のいろいろな表し方を考えよう。

（全体で共有する場面）

C:100のまとまりで考えると、100が10こで1000なので20こで2000になります。800は100が8こなので、2800は100を28こを集めた数です。

C:2800という数を数直線を使って考えます。
1つの目盛りの大きさが100だから…（友達の発表の続きを図から予想させるなどの発表の広げ方が考えられます。）

C:数直線の考え方を式で表すとどうなるのだろう。



【ヒントカード例】

ヒント①
2800は、1000を □こど、100を □こあつめた数です。
1000 100

ヒント②
2800は、3000よりも…
0 1000 2000 3000
2800

ヒント③
2800は、100を $\underbrace{100}_{100} \underbrace{100}_{100} \underbrace{100}_{100} \underbrace{100}_{100}$ こ $\underbrace{100}_{100} \underbrace{100}_{100} \underbrace{100}_{100} \underbrace{100}_{100}$ こあつめた数です。 $\underbrace{100}_{100} \underbrace{100}_{100} \underbrace{100}_{100} \dots$

考えをもたせるための支援

☆導入などで教室掲示等を活用し、既習事項を想起させる。

☆児童の実態に合わせて、ヒントカード等の支援の内容や活用場面を事前に考えておく。

☆児童の反応を見ながらペア活動等で内容を確認させる時間を取る。

◇実践のポイント◇

本時の学習では、数の相対的な大きさを様々な考え方で捉えることによって、数の仕組みについて理解を深めるとともに、数について感覚を豊かにすることが期待できます。小学校学習指導要領解説算数編に「算数科の学習では、言葉による表現とともに、図、数、式、表、グラフといった数学的な表現の方法を用いることに特質がある。」とあるように、式、言葉、図などを関連付けながら自分の考えを説明したり、伝え合ったりする活動は、数学的に考える資質・能力の育成につながるとともに、文と図を対応させて考える読解力の育成にもつながります。

◇活用できる単元例や教材例◇

言葉、図、式を結び付けて説明する学習活動は、低学年から高学年まで様々な算数科の学習場面で活用できます。意識して取り入れていくとよいでしょう。

ヒント①

2800は、1000を □こと、
100を □こあつめた数です。

1000

100

ヒント②

2800は、3000よりも・・・

0 1000 2000 3000



2800

ヒント③

2800は、100を

こ

あつめた数です。

